外国人支援に関する意見交換会

彩の国さいたま国際交流・協力ネットワークの幹事団体である市並びに当協会の主催により、外国人支援に関する意見交換会を開催しました。

意見交換会には、外国人住民のほか、日本語教室や自治会、自主防災組織の関係者など、様々な方に参加いただきました。

テーマ1 災害時外国人支援について

【①飯能市】（開催：12月13日（木）、参加者：55名）
AED講習、パネルディスカッション

【②久喜市】（開催：1月29日（火）、参加者：29名）
講演（被災地支援）、パネルディスカッション

【③川口市】（開催：2月23日（土）、参加者：42名）
救命講習、パネルディスカッション

AEDの指導を受ける外国出身者

参加した外国人住民から、災害時の「周りの日本人とのコミュニケーション」、「日本語アナウンスの理解」、「避難所での孤立」といった不安や、「東日本大震災後に一時帰国した際、親にパスポートを取り上げられ、日本に戻らないよう言われた。」というような、生の声を聞くことができました。

また自治会の関係者からは、「どのように自治会に入ってもらえばよいか分からない。」「避難所などで言葉に困るのではないか。」といった意見があり、外国人住民も共に災害に備える必要性について議論しました。

パネルディスカッションで発言する外国出身者と自主防災組織関係者

参加者の感想

外国人住民にとっては、自治会というものがよく分からず、敷居が高いと思う。外国人住民に自治会の祭りなどに参加を働きかけ、他の住民と気楽に話ができる雰囲気作りも大事だと思う。

テーマ2 外国人のための日本語教室について

【熊谷市】（開催：1月18日（金）、参加者：45名）
講演（日本語ボランティアの役割）、活動紹介（ニーズに合わせた日本語教室）、意見交換

東京外国語大　杉澤経子氏の講演では、外国人が日本語教室を居場所と感じるために必要な機能として、①情報提供、②異文化理解、③問題解決、④地域参加の４つが挙げられました。また、調査によると、外国人の日本語教室における『居場所感』が高いケースは、外国人が日本人と共に運営に関与し、役割があると感じられているとの説明がありました。

活動紹介の外国出身の講師からは、「日本語教室に来れば日本人の知り合いができると伝えることが重要。日本語を教えるだけでなく、地域に溶け込むための交流の場としてほしい。」とアドバイスがありました。

参加者の感想

様々な立場の方の話を伺い、今後の活動へのヒントになった。

テーマ3 外国出身の子ども支援について

（開催：2月24日（日）、会場：大宮ソニックシティ、参加者：35名）

※詳しくは次号で報告します。

外国出身者を交えての意見交換